※令和４年度以降入学生用

学校番号	106

令和８年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高等学校　地学基礎」　（啓林館）						
副教材等	二訂版ニューステージ地学図表（浜島書店） センサー地学基礎（啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「地球」を多方面から科学的に学ぶ科目である。それぞれの分野は私たちの日常生活に深く関わっていることもあり、興味をもって学習し、「理解」してほしい。決して「暗記する科目」ではない。
　また地球に対する様々なアプローチは、どの分野からでも地球環境問題や人類の未来について考えさせられる。主体的な学びに期待する。

2　学習の到達目標

(1)知識・技能：日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，地学的に探究する能力と態度を育てるとともに，地学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。
(2)思考・判断・表現：変動する地球について観察などを通して探究し，過去の地球の変動の歴史から今後の変化について推測できるような力を養う。
(3)主体的に学習に取り組む態度：地震や気象災害について、科学的で深い理解をもとに、充分な対策がとれる社会人となれるよう、自ら学ぶ姿勢を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・地球を取り巻く種々の事物や現象、それらに関する基礎的な知識を正しく理解している。 ・関連する図を読み解いたり、計算で解き明かす力を身に付けている。	・観察や実習を通じて適確な考察方法が身に付いている。 ・学習や実習を通じて理解したことを、応用して判断する力が身に付いている。 ・理解したことを他の生徒に説明できる力が身に付いている。	・地学的事物・現象に関心や興味をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	地球の構造	・エラトステネスの方法 ・地球楕円体 ・地球の内部構造 ・流動性による区分	a:地球の形や大きさ、内部構造を理解している。 b:密度の測定実験を行い、 c:他の惑星の形について調べ、地球との違いをまとめる。	定期考査	実習レポート 定期考査	提出物
	プレート運動・地震	・プレートと地学現象 ・プレートの移動 ・地震の発生と震源の決定 ・地震の分布 ・地震災害	a:プレートや地震発生の原理を理解している。 b:プレート分布から発生する現象や大陸の移動を説明できる。 c:居住自治体のハザードマップを用い地元の防災の重点を知る。	定期考査	定期考査	提出物
2	火山・地層の形成	・マグマの発生、火山噴火のメカニズム、火成岩の特徴 ・火山災害 ・大気、水による地表の変化 ・地層から地史を読みとく	a:火成岩の観察を通してその違いを実感する。 b:地層の構造によって上下判定を行うことができる。 c:日本の火山分布の特徴や火山災害について調べる。	観察レポート 定期考査	定期考査	観察レポート 提出物
	古生物の変遷	・化石からわかること ・地質時代の区分 ・地球環境と古生物の影響と変遷	a:生物の変遷と地球環境の変化の関係を理解している。 b:実習を通して地層の堆積環境を考察できる。 c:化石と地質時代の区分に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	定期考査	実習レポート 定期考査	提出物
3	地球の熱収支	・大気の層構造 ・太陽放射と地球放射による熱収支	a:大気の各層の特徴や雲のでき方を理解している。 b:温室効果のしくみや大気のエネルギー収支を説明できる。 c:雲の発生に興味をもち、主体的に実験をおこなう。	定期考査	定期考査	実習レポート
	大気の運動	・大気の循環 ・海水の循環 ・日本の季節の特徴と防災	a:海流の発生と仕組みについて理解している。 b:海水の鉛直循環の発生を説明できる。 c:日本の四季の天気や気象災害に関心を持ち、主体的に学ぶ。	定期考査	定期考査	提出物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度